

【府民向け】大阪府生物多様性地域戦略に関するアンケート調査

問1 大阪府生物多様性地域戦略では 2050 年のめざすべき将来像として「大阪から世界へ、現在から未来へ 府民がつくる暮らしやすい持続可能な社会」を掲げ、2030 年までに下記の(1)～(3)の状態をめざすこととしています。

(1)～(3)の進捗状況について、2020 年頃と比べて、あなたはどのように感じていますか。

(1)生物多様性の保全や自然資本の持続可能な利用の機運が醸成され、多様な主体が連携し、府域の自然環境の保全及び回復活動が進んでいる。

- 非常に進んでいる やや進んでいる わからない
 あまり進んでいない まったく進んでいない

(2)府民、事業者、民間団体などあらゆる主体が生物多様性の重要性を理解し、日常生活の中でも自然環境に配慮した行動をしている。

- 非常に進んでいる やや進んでいる わからない
 あまり進んでいない まったく進んでいない

(3)希少な野生生物について生息状況のモニタリングが進むとともに、関係者が連携して特定外来生物の防除対策が進んでいる。

- 非常に進んでいる やや進んでいる わからない
 あまり進んでいない まったく進んでいない

問2 あなたは生物多様性に関してどのような取組みを行っていますか。

()

問3 あなたが生物多様性に関する取組みを行う上での、課題を教えてください。〔複数回答可〕

- 人手不足・高齢化・活動メンバーの固定
 資金不足
 知識・技術不足
 その他 ()

問4 あなたは、生物多様性に関して、2050 年の大阪はどのようにになってほしいですか。

()

問5 問4でお答えいただいた 2050 年の大阪の姿に向けて、大阪府にどのような取組みを求めますか。特に重要と思うものを選択してください。

〔複数選択可 〕

【生物多様性の理解と行動の促進】

- 府民の行動変容を促すための情報発信
 事業者の取組の促進
 教育現場での取組の促進

- 生物多様性に触れ合うイベントの充実・情報発信
- 市町村における生物多様性への理解と取組の促進
- 外来生物に関する普及啓発
- その他（ ）

【自然環境の保全・利用】

- 法令等による保護地域の拡充
- 自然共生サイト等による保全地域の拡充
- 里地・里山等の保全活動への支援
- 自然と触れ合える場（自然公園・都市公園・都市緑地・親水河川等）の整備
- 森林整備や多自然川づくり、干潟・藻場の創造など行政主導による環境整備
- 事業者等による生物多様性に資する取組の促進
- 外来生物の防除の推進
- その他（ ）

【生物多様性保全に資する仕組みづくり】

- 野生動植物の生息状況等の把握
- 希少種等のモニタリング（レッドリストの改訂・活用）
- 野生鳥獣（シカ・イノシシなど）の保護管理（捕獲等による個体数調整）
- 生物多様性に関するリーフレット・冊子や調査データ等のデータベース化
- その他（ ）

問6 問4でお答えいただいた 2050 年の大阪の姿に向けて、あなたはどのような取組みができると思
いますか。

（ ）

問7 その他、生物多様性やネイチャーポジティブに関して、意見等があればご自由にお書きください。

（ ）

問8 あなたについて、教えてください。

- ① ご年齢（20代以下・30代・40代・50代・60代・70代以上）
 - ② ご所属
(民間団体(ボランティア)・事業者・研究機関(大学、博物館など)・学生・その他)
 - ③ 差し支えなければ、ご所属の団体名を教えてください。
- （ ）

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。